

2020年(令和2年)6月22日

病院長からの一言

医学部附属病院長就任にあたって

弘前大学医学部
附属病院長 大山 力



2020年4月1日付けで附属病院長を拝命した大山 力です。1978年に本学入学、医学部ラグビー部に所属し、フッカー以外のすべてのフォワードのポジションで試合経験を積んで1984年に卒業しました。2004年から泌尿器科学講座の教授を担当し、足掛け16年になります。藤 哲元病院長の下で病院長補佐を4年、福田眞作前病院長の下で副病院長を4年、うち、附属病院医療安全管理責任者を3年経験させて頂いております。この度、福田眞作前病院長(現学長)の後任という重責を頂戴しまして、身の引き締まる思いです。副病院長に大門 眞教授と袴田健一教授、病院長補佐に加藤博之教授、石橋恭之教授、横山良仁教授、富田泰史教

授、萱場広之教授、小林朱実看護部長という強力なコアメンバーを頂き、弘大病院を取り巻く難題に万全の布陣で臨んで参ります。特定機能病院は、高度の医療の提供、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する能力を備えた病院です。私はこの役割を重視して、患者さんの満足度を最優先しつつ、安全で高度な医療を提供することに重点を置いた診療を実践してきました。今後もその方針に変わりはなく、弘大病院の皆様と共に安全第一・無事故無違反で地域の皆様に世界標準の良質な医療を提供していきたいと思っております。また、経営改善、医師の働き方改革、地域医療への貢献も重要な課題です。この課題に対しては、

遠隔医療、AIの利用、事務系職員を含めた異職種間の交流と情報共有、診療科の枠組みを超えた調整と協調、手術件数の増加、タスクシェア、タスクシフト、チーム医療の確立、地域連携による急性期病院機能の充実などで対応したいと考えています。すでに病院再開の第一段階であるI期病棟の建設が始まっています。竣工まで3年を要しますが、II期病棟完成後を見据えた病床再編成、センター化構想の青写真もできており、新病棟建設の槌音を聞きつつ、新しい弘大病院の雄姿を思い浮かべながらの診療は力が湧いてきます。

新型コロナウイルスへの対応に追われながら病院長就任2か月が過ぎようとしておりますが、お陰様で津軽医療圏全体を包括する新型コロナウイルス感染症診療体制は確立しております。さらに、第2波、第3波、冬季のインフルエンザとの混合蔓延を想定した診療体制構築に万全を期すつもりです。弘大病院の総力を結集して新型コロナウイルス感染症を克服し、働きやすく、地域の皆様に愛され、人が育って、世界に発信できる、“Our Team:弘大病院”にするため奮励努力して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

各診療科等の紹介

【耳鼻咽喉科】



弘前大学医学部耳鼻咽喉科学教室は、2014年から松原篤教授が5代目の教授として就任し、新しい医療を取り入れながら、さらなる発展を目指しています。

まず耳鼻咽喉科の診療特徴として、聴覚、嗅覚、味覚などの感覚器を扱い、中耳炎、副鼻腔炎などの耳鼻科診療にとどまらず、咽喉頭疾患全般、頭頸部腫瘍までの幅広い領域の診療を行っています。専門外来は、アレルギー、頭頸部、中耳、難聴、補聴器、CPAP、嗅覚、内視鏡と多岐にわたります。週3回の手術日を持ち、鼓室形成術、鼻内視鏡手術から悪性腫瘍手術まで数多くの手術をこなします。

現在の大学病院で診療にあたる医師は18名です。一時期は大学勤務医師が7人という、恐ろしい時代もあったのですが、地道な活動で徐々に人員を増やし今に至ります。毎年3、4人の新人を迎え、とても活気のある教室となりました。教室のキッチンを使って、教授が得意の料理を振舞い(イチオシは餃子)、教室員や学生がおいしくいただくという宴会がしばしば開催され、それ以外にも各自様々な交流会で親睦を深めています。楽しく、アットホームな雰囲気のある教室ではないかと思っております。

もちろん、楽しいだけではありません。青森県の耳鼻咽喉科診療を牽引するべく、今まで手薄になっていた領域にも積極的に取り組んでいきます。以前は、反回神経麻痺の嚙声が残ってもあきらめるしかなかったのですが、声帯の位置を調整する甲状軟骨形成術を外部からご指導いただきながら導入しています。誤嚥防止手術なども

ほとんど行われていましてでしたが、喉頭中央部分切除が行われるようになりました。喉頭摘出で声は出なくなりますが、全身麻酔下に2時間程度の低侵襲手術で誤嚥が防止でき、多くの患者さんは経口摂取できるようになっていきます。術後のQOLの改善は歴然です。このように発声、嚥下をはじめとして、聴覚、嗅覚など様々なQOLの改善につながる診療を行っています。鼻内視鏡手術には危険部位を損傷しないようにナビゲーションシステムが導入され、扁桃摘出術には術者、指導者が手術状況を細部まで観察できるVITOMシステムが導入され、手術の指導、教育は充実しました。新人の手術の上達は格段に速くなったと思います。頭頸部癌治療はエビデンスをふまえて、手術や化学放射線療法を行っています。根治不能例に対する化学療法の幅も広がっています。アレルギー治療では、免疫療法などが加わり、対症療法だけではなく根治的な治療を行うことができるようになりました。

岩木健康増進プロジェクトを通して、これまでに多くの大学院生がアレルギー、嗅覚、平衡機能などを研究し、アレルギー研究のための動物実験も行われています。まだまだ未熟な領域もありますが、皆でこれからますます研鑽を積み、よりよい耳鼻咽喉科教室にしていければと思います。

(耳鼻咽喉科 講師 高畑淳子)

MRI 更新

平素より附属病院放射線部の管理と運営にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。この度、中央診療棟地下1階のMRI装置1台を最新モデルの3テスラMRIに更新いたしました。今回の更新により、本院のMRI装置は3テスラ2台、1.5テスラ1台の計3台体制となりました。

更新にあたっては、最新型であることは勿論のこと、高分解能の全身拡散強調画像や高精度の脳神経線維画像が取得できること、心臓や骨盤部など様々な領域で最新の撮像法に対応できることなどを要件とし、3テスラの最上位機種を導入いたしました。新型コロナウイルス感染症の影響で、稼働に遅れがございましたが、現在、技術トレーニングやオーダーリングシステムの改修等を行っております。5月21日より6月1日分の予約から「MRI3」として受付を開始し、当面の撮影可能な部位は頭部・頸部、体幹部(MRCPを除く)としておりますが、徐々に業務を拡大する予定です。MRIの進歩は著しく、撮影のパラメーターを調整することにより、従来のMRIでは描出することが困難

であったものを描出することが可能になってまいりました。何をしたいのか、どのような解析をしたいのか、アイデアがございましたら、是非とも放射線部または放射線診断科にご相談いただければと思います。

また、今回の更新にあたっては、診療放射線技師の増員と看護師や事務職員の配置にご配慮いただき、関係各部署の皆様へ厚く御礼を申し上げます。これまで、数週間から2か月ほどの予約待ちで皆様に多大なるご迷惑をお掛けしておりましたが、少しでも待ち時間



の改善に資するように、また、先生方の多様なニーズにお応えし、診療のみならず教育、研究にお役立ていただけるように診療体制を強化して参りますので、これからもご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(放射線部長 青木昌彦)

2020年度体制スタート!

今年度は、副病院長に内分泌代謝内科学講座 大門 眞教授、消化器外科学講座 袴田健一教授、病院長補佐に総合診療医学講座 加藤博之教授、整形外科講座 石橋恭之教授、産科婦人科学講座 横山良仁教授、循環器腎臓内科学講座 富田泰史教授、臨床検査医学講座 萱場広之教授、看護部 小林朱実看護部長が病院長補佐に就任しました。(総務課)



副病院長
大門 眞
内分泌代謝内科学講座
教授



副病院長
袴田 健一
消化器外科学講座
教授



病院長補佐
加藤 博之
総合診療医学講座
教授



病院長補佐
石橋 恭之
整形外科講座
教授



病院長補佐
横山 良仁
産科婦人科学講座
教授



病院長補佐
富田 泰史
循環器腎臓内科学講座
教授



病院長補佐
萱場 広之
臨床検査医学講座
教授



病院長補佐
小林 朱実
看護部長

患者にとって自分の思う通りに治療が進まない場合、患者は自分が受けている医療に疑問を感じ、医療者に対して不信感を増長させ、やがて思いを爆発させることとなります。場合によっては医事紛争へ進展することがあります。そうなる前に介入することが大切だと考え、2017年に医療対話推進者B(基礎)の資格を取りました。それ以前は患者と医療者との話し合いに入ると結構気が減入ることがあり、数日間は塞ぎ込むことがありました。これをこのまま続け

ていれば自分の精神が病んでしまうと思い、京都大学の松村由美教授に相談したところ、医療メディエーターという資格があることを教えてくれました。

早速、テキストを購入しセミナーに参加をして資格を取りました。基本的にはIPI (Issue-Position-Interest) 法というスキルを用い、患者が求めているものは何かを俯瞰的に眺めつつ、患者と医療者の対話を仲介します。医療者(特に医師)は怒鳴られたりすることに慣れておらず、患者から何かを言

先憂後楽

医療メディエーター(医療対話仲介者)とは



医療安全推進室長 大徳和之

われた時に身構えてしまい防衛的になります。時には言い訳を続けてしまい、対話が成り立たなくなります。患者の気持ちは収まらず、さらに攻撃するようになり、医療を継続することが困難となってしまいます。ここで登場するのが医療対話仲介者です。まずは医療者と共に患者(家族)の思いを傾聴します。時には罵倒されますが、そこは一度受け止めます。そして患者がどういう立ち位置にいて、何を求めているかを俯瞰的に眺めます。合併症が起きた場合など、

正直にお話しし、場合によっては医療者に謝罪を促します。医療者側の落ち度がない場合には、粘り強く説明するように仲介します。患者が疑問に思っていることは何かを探り、患者が変わって医療者に聞くようになります。そうすると徐々に溝が埋まっていき、患者や家族の納得を得られるようになります。医事紛争を避けることができれば良いと思っておりますが、解決した後でもやっぱり気分は重くなります。

令和元年度ベスト研修医賞選考会開催



ベスト研修医賞に選ばれた笹田貴史先生を囲んで、福田前病院長、若林前医学研究科長とともに記念撮影。

令和元年度弘前大学医学部附属病院ベスト研修医賞選考会が、令和2年2月27日より、外来診療棟小会議室で開催されました。本賞は平成16年度の卒後臨床研修必修化に合わせて創設された賞であり、今回で16回目を迎えます。当日は、荒井冨衣子先生、榎引英恵先生、笹田貴史先生、諏訪秀行先生(五十音順)の4名の研修医が、「ここがポイント! 研修医

の心がけ」と題し、自分が研修生活の中で重視してきた事柄について、一人8分間ずつスピーチを行ないました。聴衆は学生および教職員で、スピーチのあと参加した学生諸君による投票が行なわれました。投票の結果、笹田貴史先生が令和元年度ベスト研修医に選ばれました。引き続き表彰式が行われ、笹田先生に賞状、トロフィー、記念品が贈られました。その他に

も各種特別賞として、諏訪先生に「ベストパートナー賞」、荒井先生に「レポート大賞」、榎引先生に「セミナー賞」、笹田先生に「グッドレスポンス賞」が贈られました。5年生から恒例となった「ベスト指導医賞」の発表が本年も行われ、村上千恵子先生(脳神経内科)に最優秀指導医賞が、三上珠希先生(子どものこころの発達研究センター)と西崎公貴先生(高度救命救急センター)に優秀指導医賞が贈られました。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、当日は手指消毒などを徹底し、また参加者数は限られたものになりましたが、本行事は教職員、研修医、学生の参加者がみな、この1年の研修や臨床実習を振り返る貴重な機会となっており、来年度は新型コロナウイルスを克服して、のびのびと明るく開催できる環境になっていることを心から願っています。

(総合臨床研修センター長 加藤博之)

災害時のえんげ食パンフレットを発行

言語聴覚士(ST)は、食べる・話す・聞くことを専門として日々リハビリテーションを行っており、本院ではST対象疾患の9割が嚥下機能障害です。その様な患者さんが自宅に戻り自然災害に被災した場合、避難所で何を食べるのか?という疑問から、昔ながらの備蓄品である乾パンを嚥下食にする試作を始めました。何度も試作を繰り返しましたが、思い通りの味や見た目にはなかなかたどり着けませんでした。STは日常業務として、適切なタイミングで患者さんに合った食形態を選ぶことを行っていますが、食材や味は専門知識を持った栄養士が管理しています。そこで栄養管理部の横山麻実管理栄養士に加わっていただいたところ、味や見た目は格段に改善されました。更に学長リーダーシップ予算のサポートもいただき、より単純な行程で調理で

き、嚥下食に限らず離乳食としても利用できることも目指し嚥下食の試作を続けました。最終的に、避難直後に配給され日常生活でも身近な食品であるパン・カップ麺・おにぎり・卵・お菓子で嚥下食(嚥下コード3)を作るパンフレットを作成することが出来ました。緊急時や老老介護を想定し計量しないことにこだわり、5つの道具(カセットコンロ・ガス・鍋・皿・ビニール袋)と水と食材で調理を可能にしました。2018年弘前市民健康祭りでは300食を実演提供し、試食後アンケートでも好評を頂きました。多様な嚥下



食が開発・市販されているなか、ある食材とある道具を使用するという基本に戻り、単純な行程で嚥下食を調理可能にできたことはとても有意義であり、災害時に限らず嚥下食調理が更に身近になるよう今後も活動をしていきたいです。

(医療技術部リハビリテーション部門 言語聴覚士 中山佐織)

がん看護専門看護師に認定



私は、2019年3月に青森県立保健大学の専門看護師コース(がん看護領域)を卒業し、同年12月に日本看護協会のがん看護専門看護師の認定審査に合格しました。専門看護師は、6つの役割(実践・教育・調整・相談・倫理調整・

研究)を担い、卓越した看護実践能力で、患者と家族が持つ複雑で解決困難な看護問題に取り組みます。中心になる役割は、ケアが困難な患者に対する直接ケアですが、看護スタッフの能力向上や組織機能の向上に貢献する役割も担います。がん看護専門看護師を目指した動機は、血液がん患者の治療と生活の意思決定にしっかり向き合えるようになりたかったことにあります。化学療法が奏功する血液がんの場合、積極的治療と緩和的治療の線引きが曖昧なため、治療の継続が患者にとって最善なのか、病棟看護師とともに悩んでいました。丁度、キャリアアップを真剣に考えていた頃であり、偶然にも

その年に、地元の青森県にがん看護を学ぶ場ができたのは、本当に幸運でした。

修士課程では、指導教授をはじめ、実習担当のがん看護専門看護師から支援を受けながら、ケアの実践者としての自分自身と向き合うという貴重な2年間を過ごしました。複雑な事例を俯瞰してとらえられるようになり、現在は学びを活かしながら、がん患者の意思決定支援を行っています。

これから、がん看護専門看護師の役割を院内の方々に知っていただくことを目指して、何事も真摯に取り組み、少しずつ成長していきたいです。現在は、腫瘍内科外来で、がんゲノム医療に関わっております。専門看護師1年生の私には荷が重い役割ですが、他職種の方々とともに、この新しい医療が軌道にのることに尽力して参ります。がん患者と家族に関して、何か気になる事がありましたら、いつでもお声がけください。看護師としての成長を促すために進学を後押ししていただいた看護部長、支援していただいた周囲の方々に深く感謝しております。院内の皆様方、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

(看護部 小野晃子)

臨床試験管理センターのホームページリニューアル

この度、臨床試験管理センターでは、ホームページを全面リニューアルしました。

今回のリニューアルでは、安全やリラックス、自然、健康、エコロジーといったイメージを想起させる緑色を基調としたコンセプトカラーとしました。スマートフォ

ンやタブレット端末からもご覧いただけるレスポンスデザインに対応しており、治験依頼企業が治験を依頼する際の手続きや、研究担当医師が臨床研究を実施の際の手続き等の情報にアクセスしやすいよう、構成やデザインを全面的に刷新しました。

また、患者さんが安心して治験や臨床研究に参加していただけるよう、必要性や安全性について分かりやすく解説しており、今後更なる内容の充実化を図っていきたいと考えております。

治験や臨床研究を円滑に進めて行くための最新の情報を発信し、より利便性の高いホームページを目指して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

(臨床試験管理センター)



看護の日

5月12日は「看護の日」です。そして、その日を含む日曜日から土曜日までが「看護週間」です。「看護の日・看護週間」は、近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日にちなんで1990年に制定されました。

今年は「看護の日・看護週間」が制定されてから30年目を迎えるとともに、ナイチンゲール生誕200年となるアニバーサリーヤーでした。本来であれば、全国各地で記念行事や、看護にふれるさまざまなイベントが開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、多くのイベントは開催が自粛となりました。看護部では毎年、正面玄関中央待合ホールに趣向を凝らした生花を

展示しておりましたが、今年は「輝き」をテーマとしたプリザーブドフラワーを展示しました。生花とは違い、香りを楽しんでいただくことは出来ないのですが、優しい春色のグラデーションに心が癒されました。また、入院中の患者さんには担当看護師がメッセージを添えてカードをお渡ししています。入院中の面会禁止によるストレスや、拡大が続ける感染症への不安がある中でしたが、メッセージカードを介しての患者さんとの談笑のひと時には看護師も元気を頂きました。

日本看護協会の今年のメインテーマは「看護は世紀を超えて進化する」です。新型コロナウイルスのパンデミックにより、社会は

大きな変化が求められています。医療従事者の一員として感染防止や感染者のケアにあたる看護職ですが、この経験が看護の新たな進化に寄与することを願います。

(第一病棟7階 高田直美)



【編集後記】

南塘だより第98号をお届けいたします。ご多忙のところ、原稿をお寄せいただきました皆様にも心より感謝申し上げます。さて、この原稿を執筆している5月初旬は桜満開で絶好の花見日和でしたが、2020年の弘前さくらまつりは新型コロナウイルスのため中止となってしまいました。3密に配慮しながら公園周囲を散歩する程度しかできませんでしたが、いつもと変わらず雄大に咲く桜は、新たな感染症に戦々恐々としている我々とは対照的で、人類の弱さと小ささを感じました。病院運営も予断を許さぬ状況ですが、ワンチームでこの難局を乗り越え、来るべき新しい未来に期待して、日々の感染予防に努めたいと思います。一日も早く収束することを願っております。

(病院広報委員会 先進血液浄化療法学講座 畠山真吾)

弘前大学医学部附属病院へのご寄附、心より御礼申し上げます

ご氏名の掲載をご承諾いただいた方に限り、ここにご芳名を掲載させていただきます。今号では、令和2年2月から令和2年4月末までの間にご入金を確認させていただきます方を公表させていただきます。(経理調達課)

寄附者ご芳名
藤森 明様 奈良岡 智様